

島根県における 外来リハビリテーション資源調査

2022年度調査結果

■ 調査概要

アンケート実施主体	<ul style="list-style-type: none">・ 島根県リハビリテーション専門職協議会・ 一般社団法人 島根県理学療法士会・ 一般社団法人 島根県作業療法士会・ 島根県言語聴覚士会（一般社団法人 山陰言語聴覚士会）
実施目的	島根県内の外来リハビリテーションの実施状況を調査し、関係機関が情報を共有することにより地域住民に対して適切にリハビリテーション医療が提供できること
調査期間	2022年10月27日～2023年2月末
アンケート方式	WEBアンケート
回答数	全回答数：81件 重複回答：4件 有効回答数：77件
アンケート結果の公表方法	【全体集計】 アンケートの回答について割合等で概要を示したもの →本資料 【詳細集計】 施設毎の外来リハ開設内容をまとめたもの →公開の同意が得られた施設の情報を、協力施設に電子公開するもの

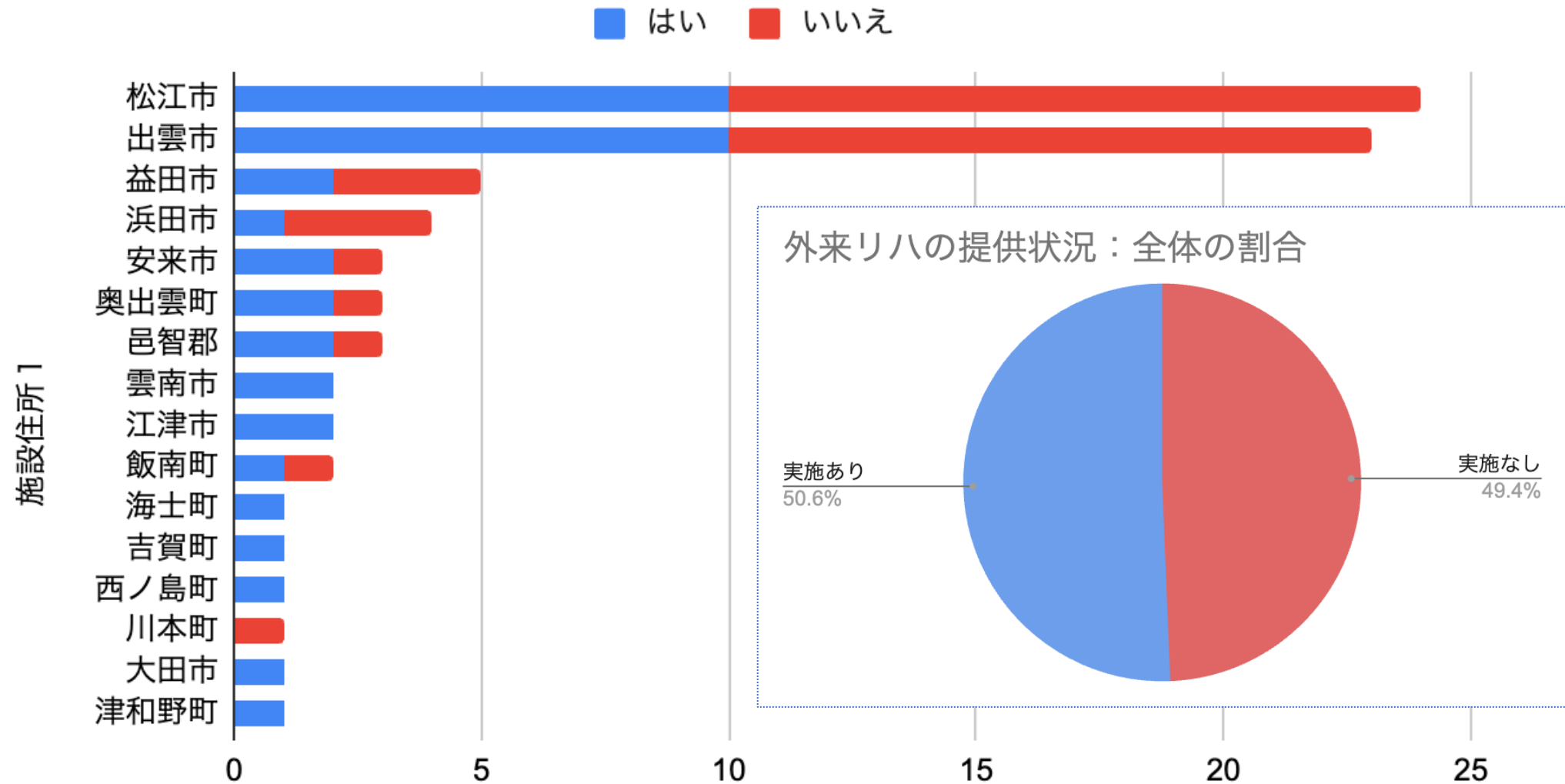
■ 調査項目

- 施設基本情報
- 外来リハビリの開設状況
- 脳血管リハビリテーションの外来開設状況について（4問）
- 運動器リハビリテーションの外来開設状況について（3問）
- 呼吸器リハビリテーションの外来開設状況について（2問）
- 心大血管疾患リハビリテーションの外来開設状況について（4問）
- 言語聴覚療法に関連した外来開設状況について（4問）
- 小児疾患リハビリテーションの外来開設状況について（2問）
- 精神科領域のリハビリテーションの外来開設状況について（2問）
- 自費等によるリハビリテーションの実施状況について（2問）
- 外来リハビリテーションの課題（自由記載）

回答結果 [全体集計]

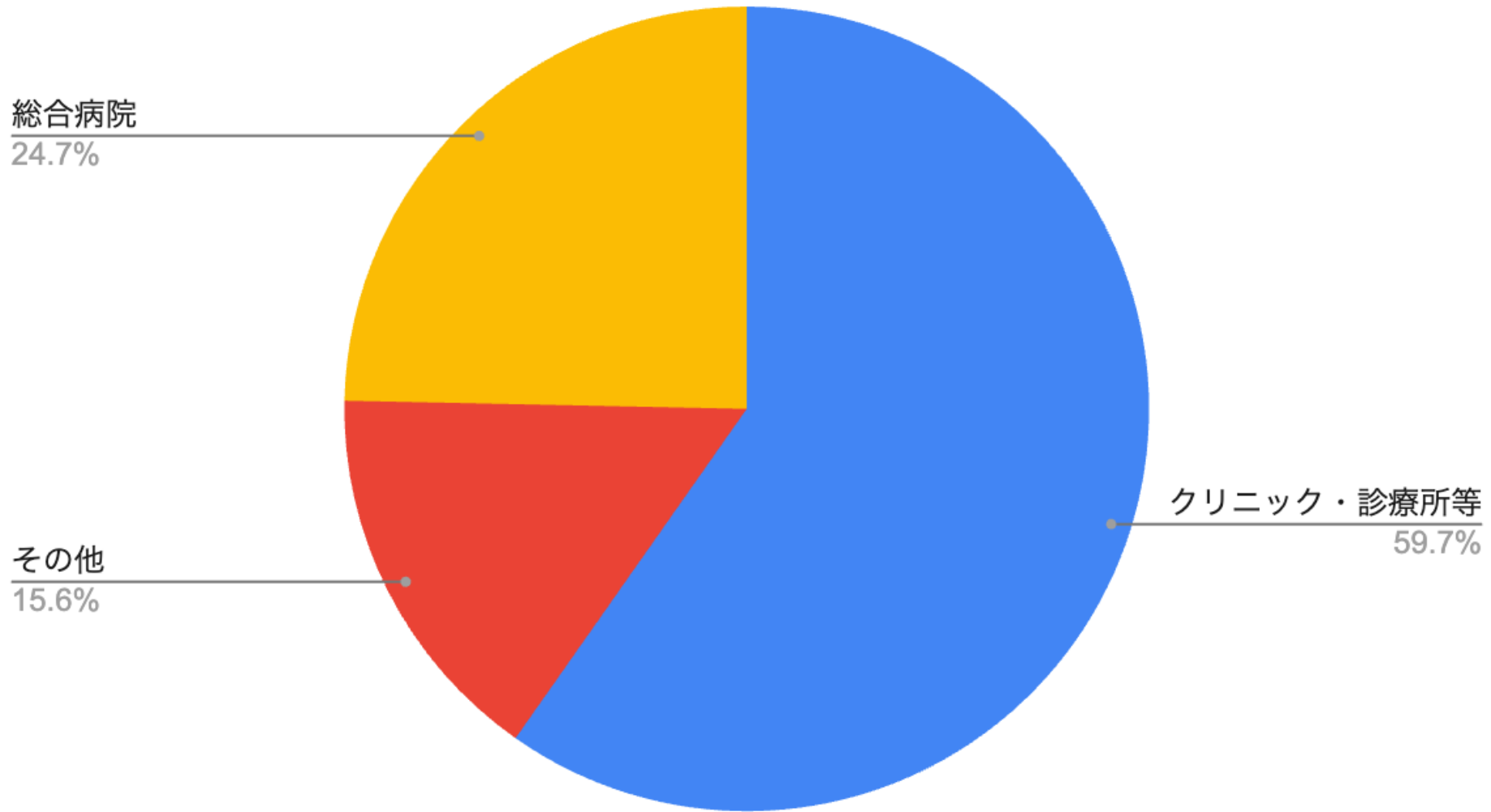
■ 回答施設所在地と外来リハビリテーション提供状況

外来リハビリテーション実施状況 [回答施設内訳]



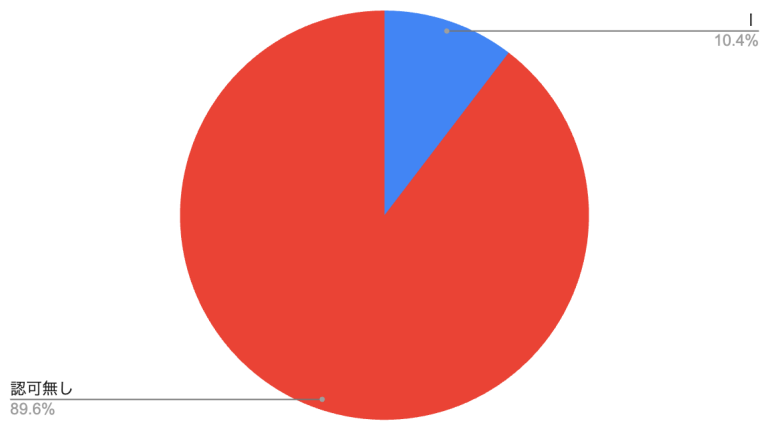
■ 回答施設の形態分布

回答施設分布

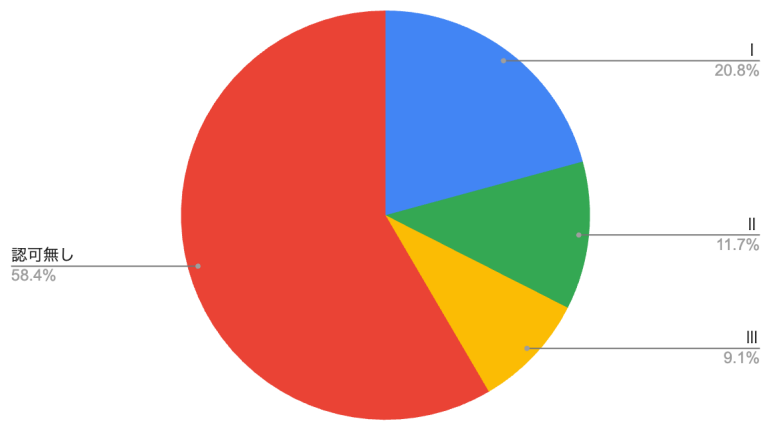


■ 回答施設のリハビリテーション施設区分

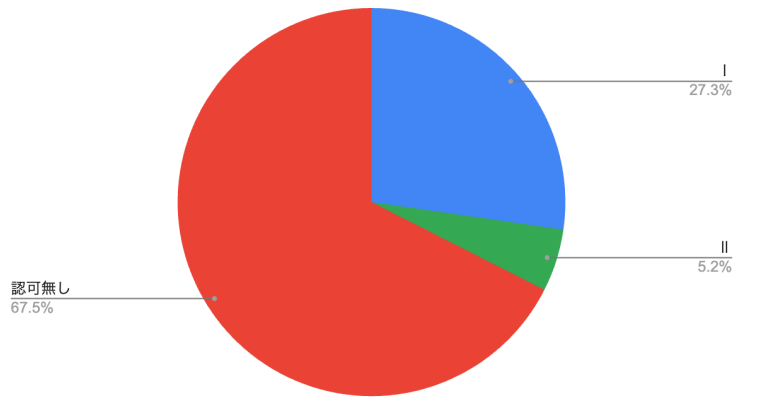
心大血管リハ開設状況



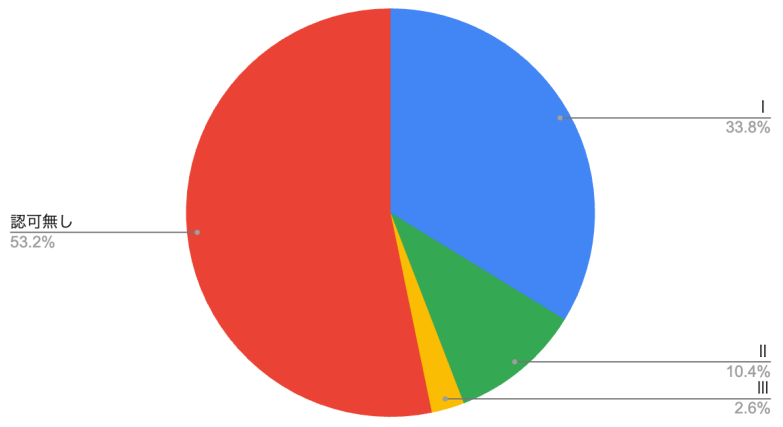
脳血管リハ開設状況



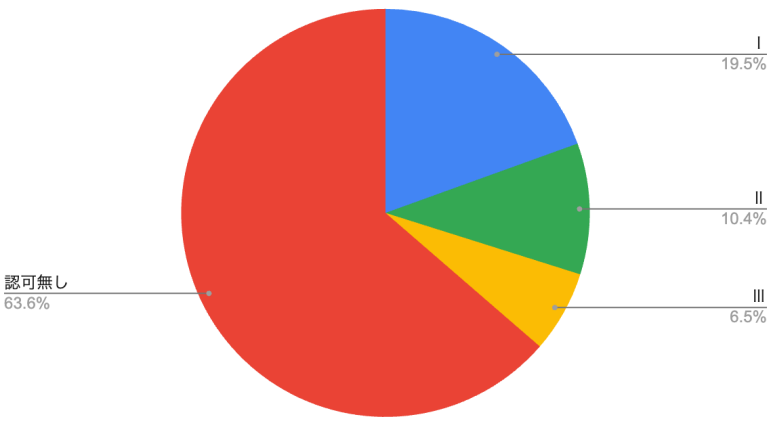
呼吸器リハ開設状況



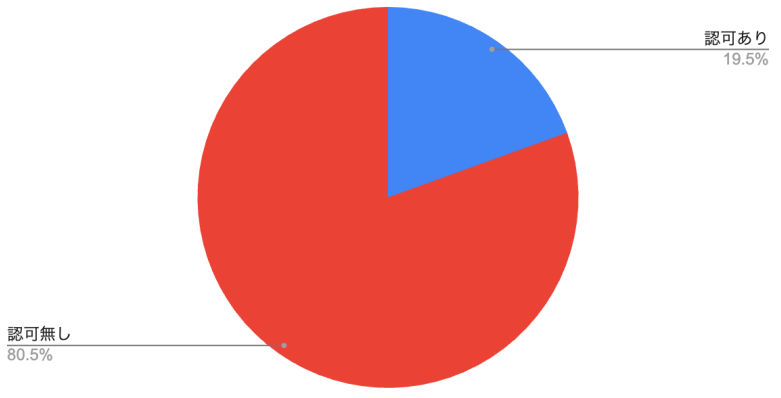
運動器リハ開設状況



廃用症候群リハ開設状況

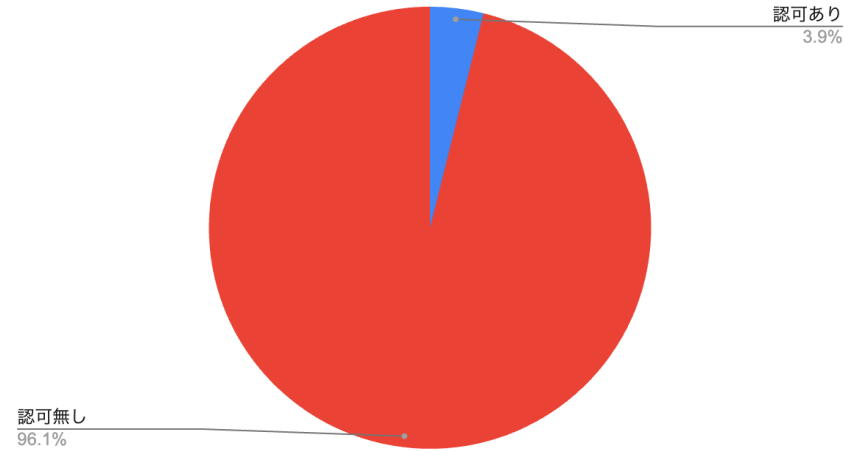


「施設基準認可状況【がん患者リハ料】」のカウンタ数

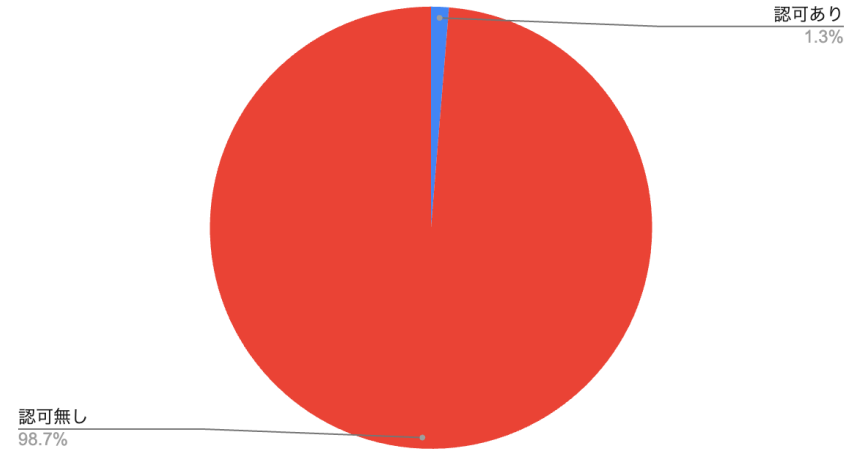


■ 回答施設のリハビリテーション施設区分

障がい児者リハ開設状況



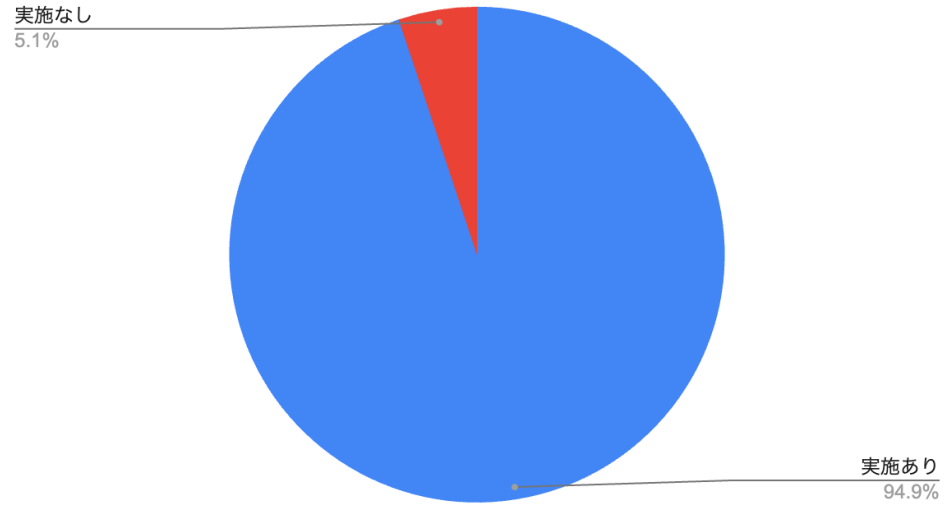
難病患者リハ開設状況



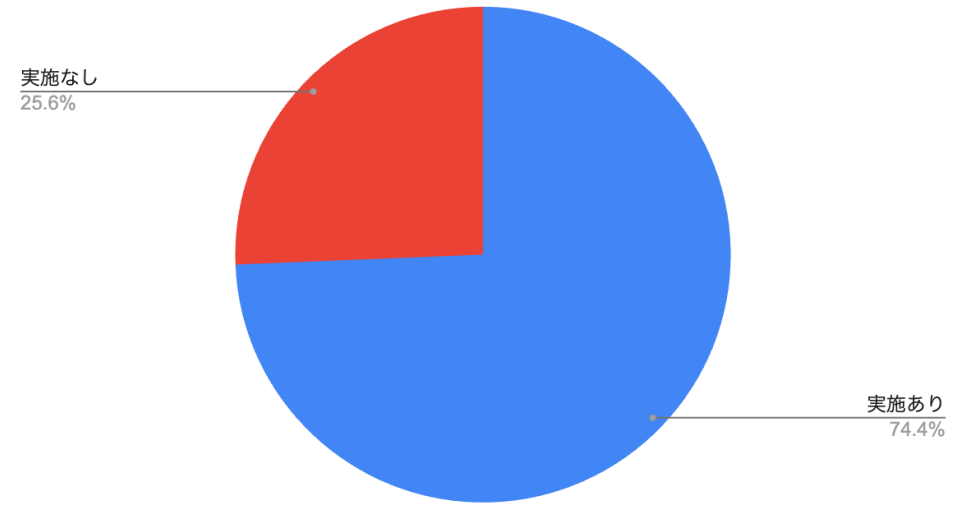
**ここから先の集計は
「外来リハビリテーションを実施している施設」における詳細です。**

■ 療法種別毎の外来リハビリテーション実施状況

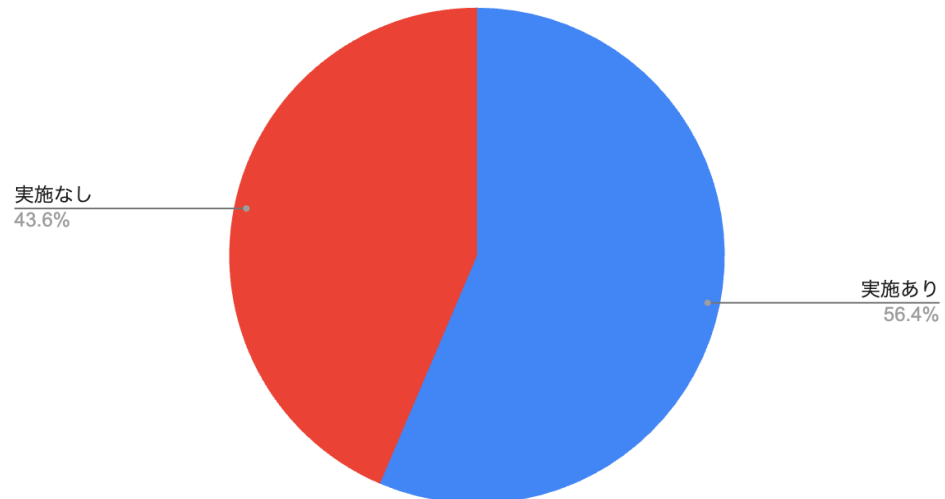
外来理学療法実施状況



外来作業療法実施状況

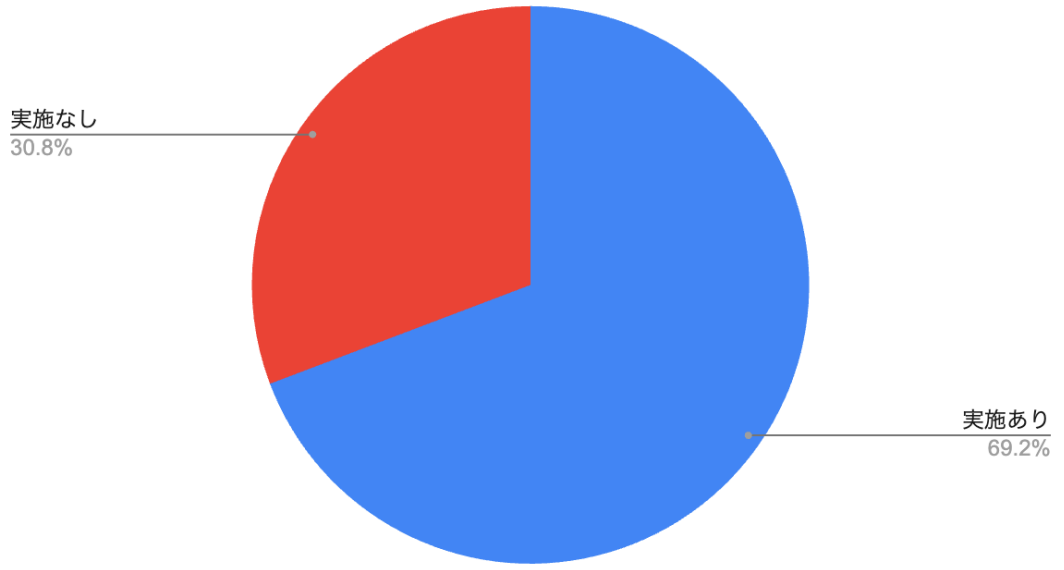


外来言語聴覚療法実施状況

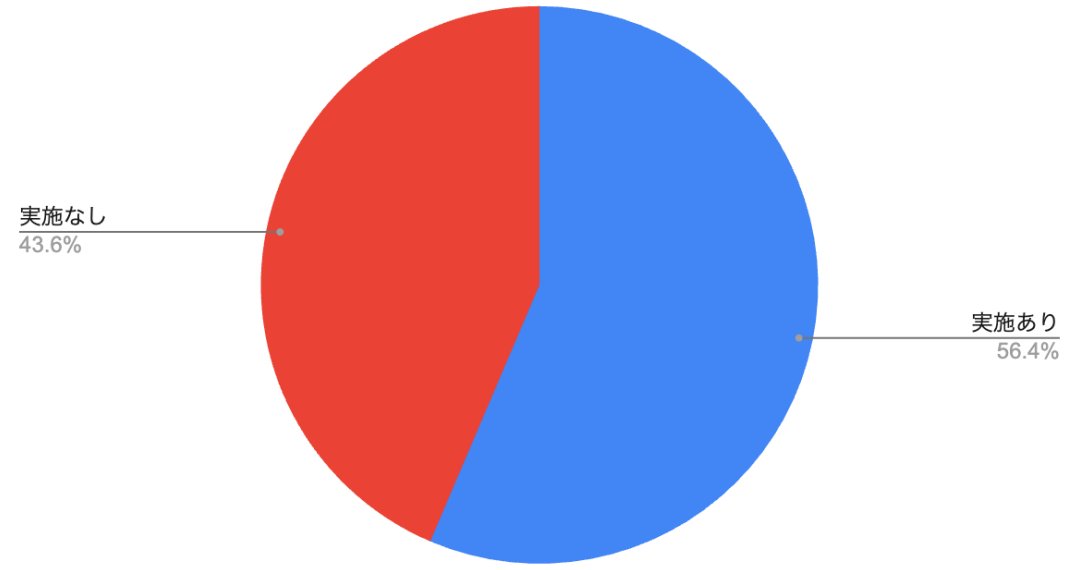


■ 脳血管疾患領域の外来リハビリテーション実施状況

脳血管疾患に対する外来リハ実施状況



神経筋疾患・難病に対する外来リハ実施状況

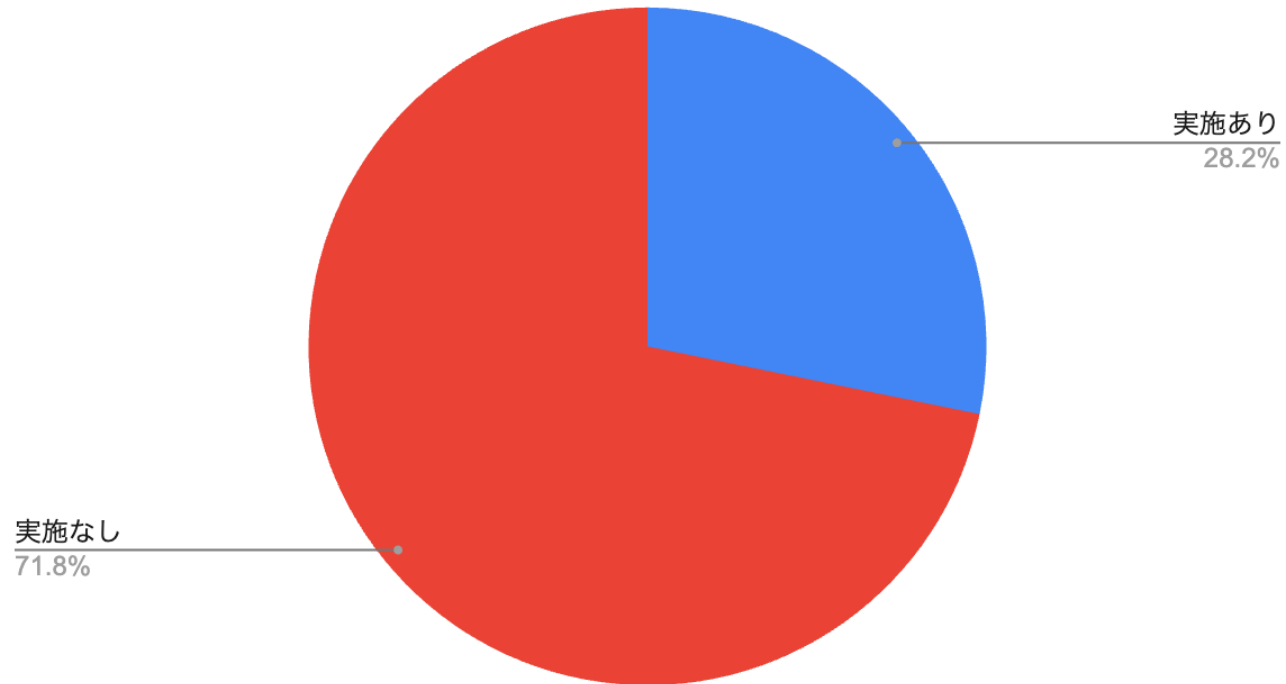


* 脳血管リハ外来リハ実施ありの施設が分母

脳血管疾患に対する外来リハビリテーションは27施設で提供。
そのうち、22施設で神経筋疾患、難病に対する外来リハの実施あり。

■ 呼吸器疾患領域の外来リハビリテーション実施状況

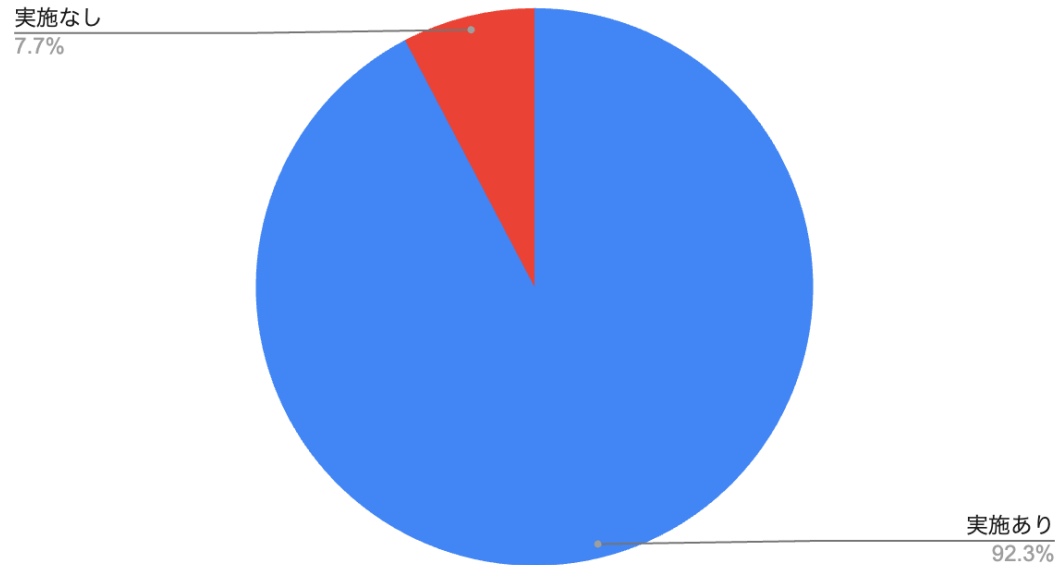
呼吸器疾患に対する外来リハ実施状況



呼吸器疾患に対する外来リハビリテーションは1 1施設で提供。

■ 運動器疾患領域の外来リハビリテーション実施状況

運動器疾患に対する外来リハ実施状況



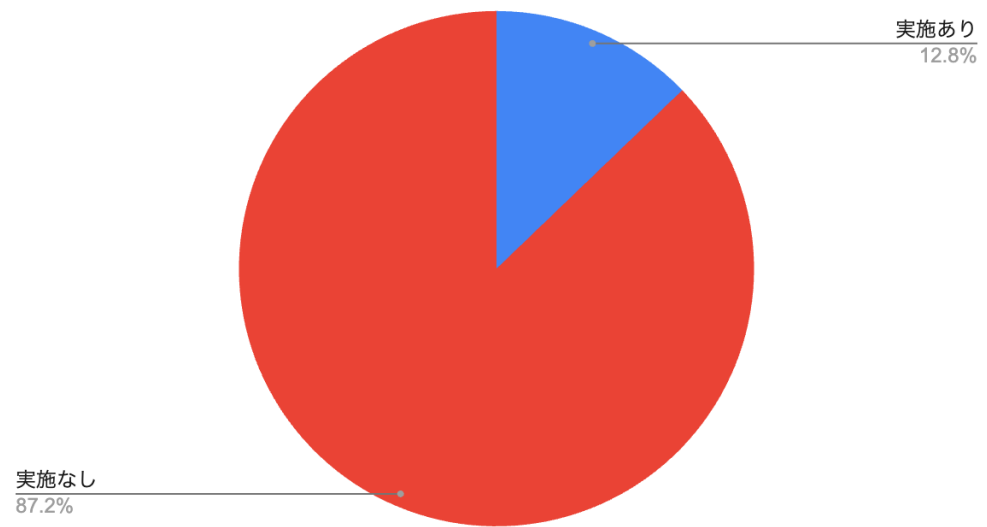
スポーツ障害に対する外来リハ実施状況



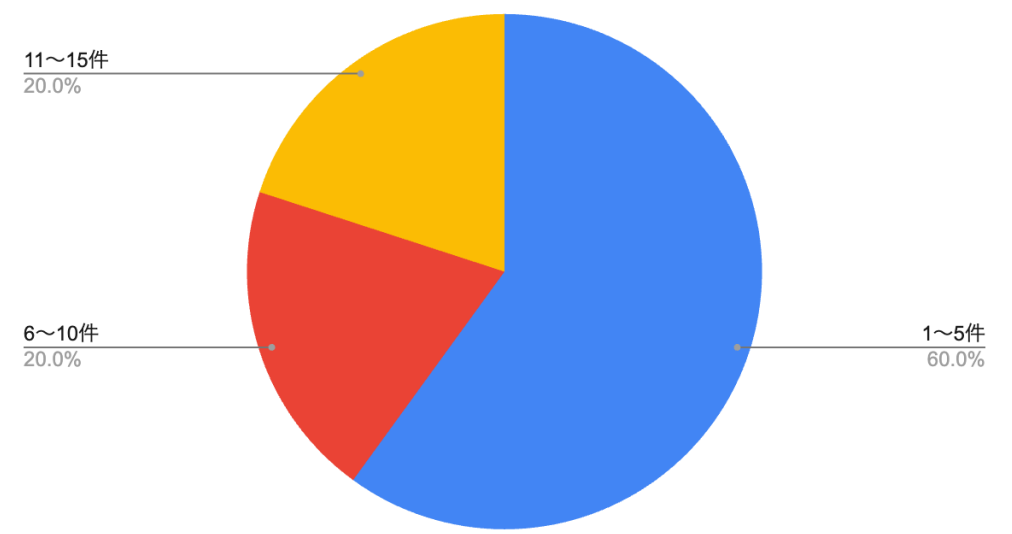
運動器疾患に対する外来リハビリテーションは36施設で提供。
そのうち、20施設でスポーツ障害に対する外来リハの実施あり。

■ 循環器疾患領域の外来リハビリテーション実施状況

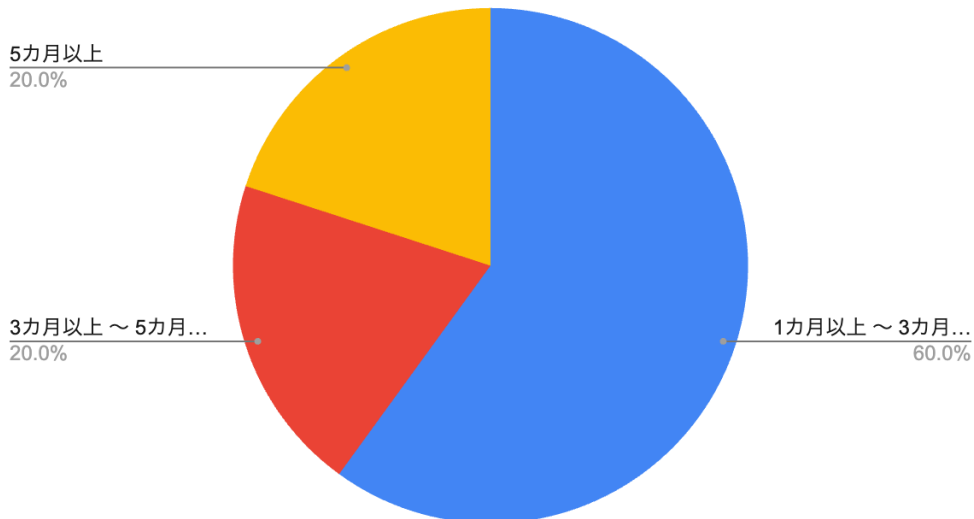
循環器疾患に対する外来リハ実施状況



1週間の循環器領域外来リハの実施件数



循環器領域の患者の平均継続期間（概数）

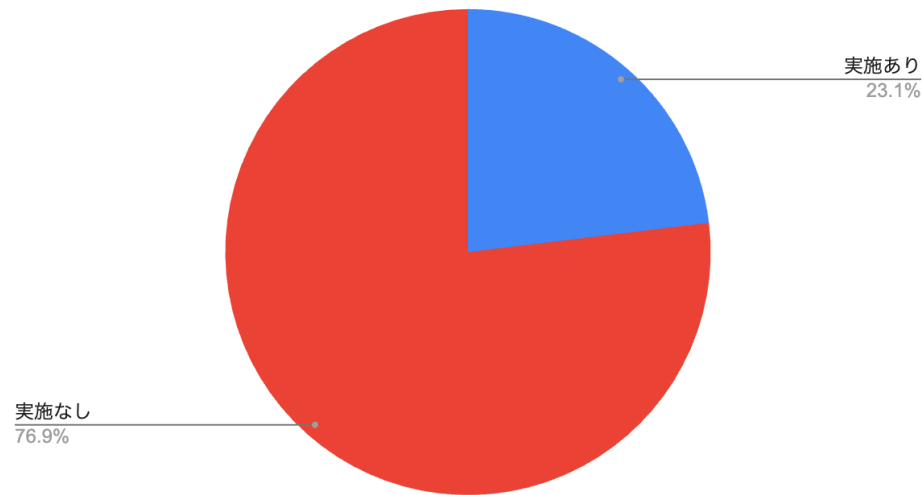


循環器疾患に対する
外来リハビリテーションは5施設で提供。
3施設で週に1～5件の実施実績あり。

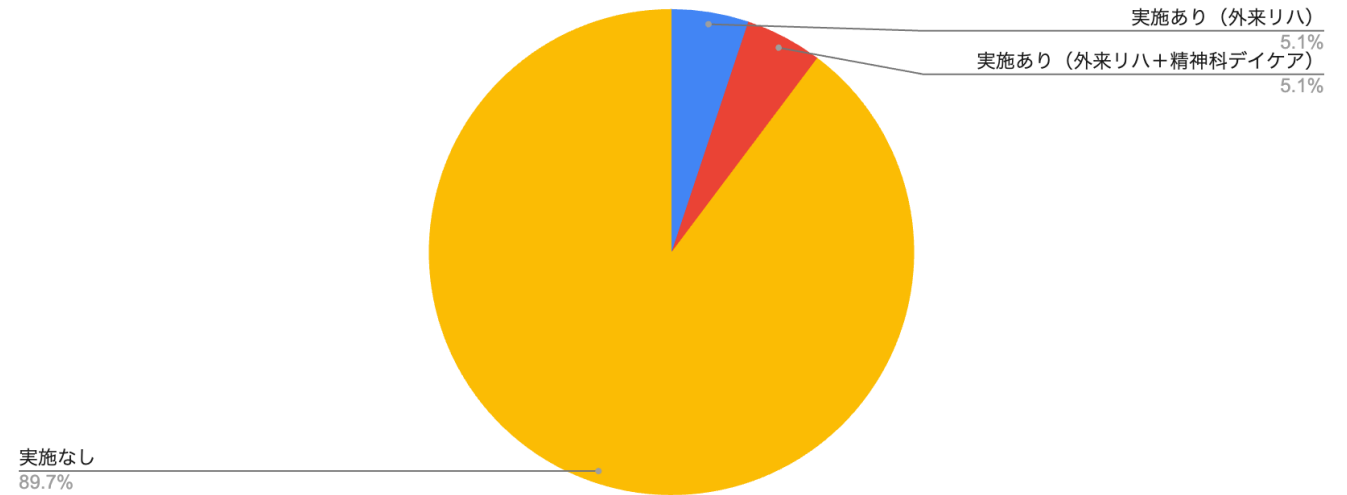
平均継続期間は3施設で1～3カ月。

■ 小児疾患、精神科疾患に対する外来リハビリテーション実施状況

小児疾患に対する外来リハ実施状況



精神科領域に対する外来リハ実施状況



小児疾患に対する外来リハビリテーションの提供があるのは9施設に留まり、発達障害や脳性麻痺に対する提供であった。

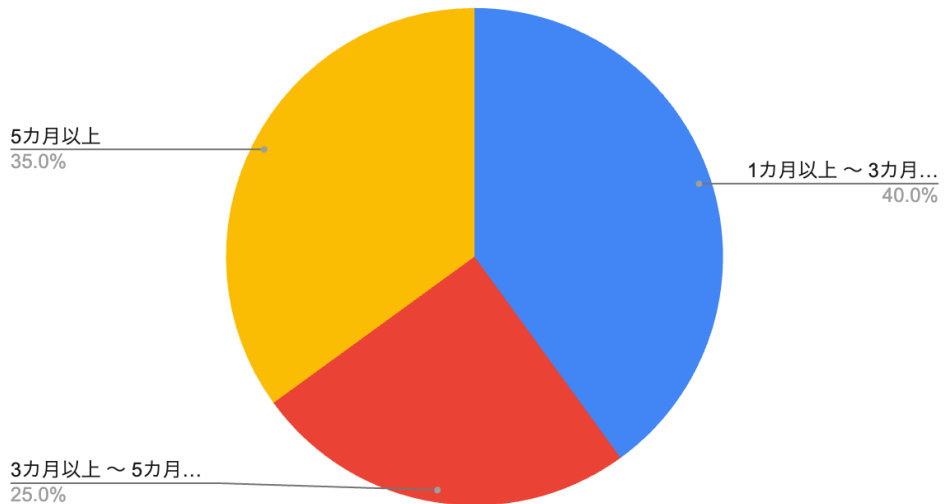
精神科領域に対する提供はさらに少なく、外来リハとしての実施が2施設、精神科デイケアと双方実施している施設が2施設あった。

■ 外来での言語聴覚療法の実施状況

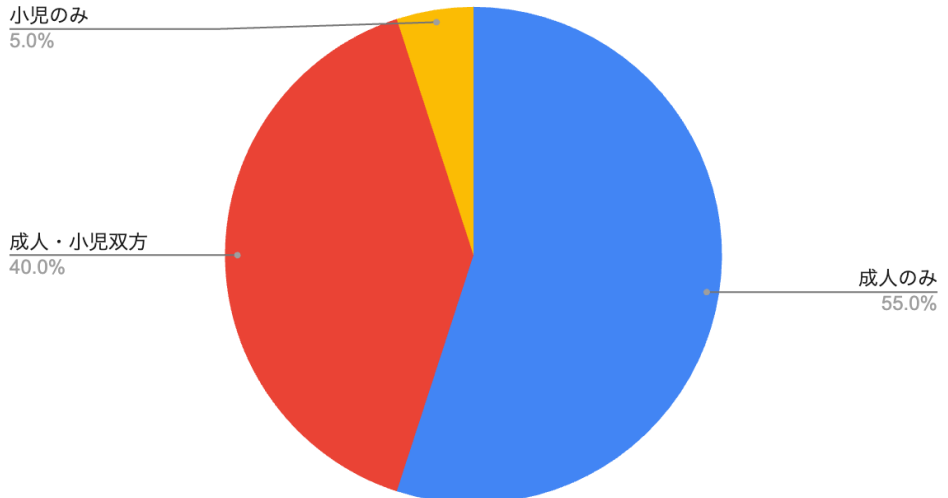
外来言語聴覚療法の実施状況



外来言語聴覚療法の継続期間



外来言語聴覚療法の実施対照

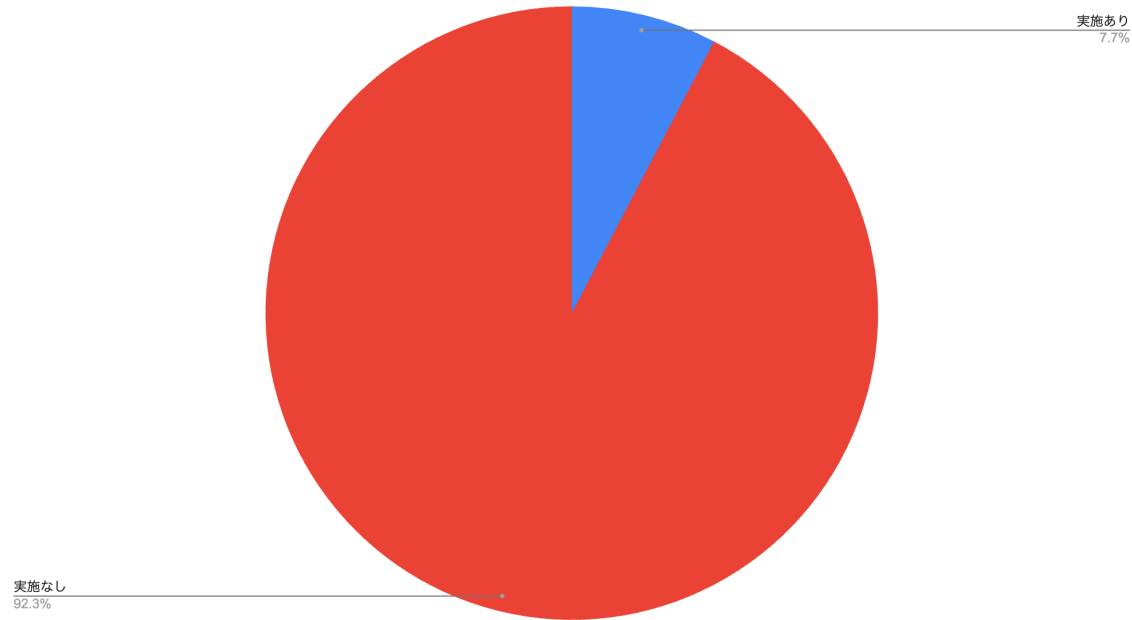


言語聴覚療法の外来リハビリテーションは20施設で提供され、実施期間はばらつきが認められた。

対象は成人のみがおよそ半数で、残りの半数で小児も対象となっていた。

■ 自費による外来リハビリテーションの提供状況

自費による外来リハビリテーションの提供状況



自費による外来リハビリテーションが提供されている施設は3施設のみであった。提供内容は以下の通りであった。（重複あり）

- 失禁予防
- ウィメンズリハビリテーション
- 口コミ検診および指導
- 運動器

■ 外来リハビリテーションの課題について

外来リハビリテーションの課題について自由記載にて回答を得た。
テキストマイニング等を用いて抽出された主要な課題は以下の通りであった。

- 療法士のマンパワー不足
- 通院困難（通院手段がない）
- 標準算定日数や逡減によるコストパフォーマンス
- 介護保険への移行のマネジメントがうまくいかない
- 外来リハビリテーションの目的が曖昧で終了時期が定めにくい
- 周囲に外来リハ施設がなく、集中してしまう
- 地域毎の外来リハビリテーション提供施設の数の格差
- 転医時に提供体制が異なる事に起因する患者からの不満